

2025.2.28 発行

## ■ 周年事業委員会からのお知らせ

企画委員長 亀井智子（聖路加国際大学）

聖路加看護学会設立 30 周年を祝し、大会終了後に引き続き、アリス C.メモリアルホール他において下記を開催します。皆様のご参加をお願いいたします。

### 1. 式典

30 周年記念式典を開催します。本学会の発展の軌跡をたどり、現在の立ち位置と、未来を展望します。軌跡の写真は 2 階ラウンジで公開します。

### 2. 記念講演

本講演では、卒業生で現在 WHO 西太平洋地域事務局で職員として活躍されている芝田おぐさ氏をお迎えします。WHO の取り組みを通じた PCC（People-Centered Care: 市民を中心としたケア）の理念と実践に焦点を当て、その世界的な普及や課題についてお話いただきます。

### 3. 記念シンポジウム

記念シンポジウムでは、「People-Centered Care を創る－開発から実装への軌跡」をテーマに、PCC の概念化からその発展、教育、そして実装に至るプロセスとその内容を多面的に取り上げます。PCC の実装リレートークを設け、地域、病院等のさまざまな場で PCC を実装されているシンポジストの方々から、具体的な PCC の実践・活動をお話いただく予定です。

### 4. 記念懇親会（聖路加国際大学 2 階ラウンジにて）

講演会・シンポジウムの後はビュッフェ・パーティーを行います。学会のこれまでやこれからについて、にぎやかに語らしましょう。懐かしい仲間との再会もあるかもしれません。お気軽にご参加ください。

### 5. 記念品

30 周年の思い出に残る記念品を作成中です。

### 【学会に関連する写真・メッセージ大募集中！】

聖路加看護学会の 30 年を写真で振り返る企画を計画しています。

お手元の聖路加看護学会のお写真をご提供いただけませんか。会員の皆様からの「一言メッセージ」も募集しています。

ご提出をお待ちしています！

期限: 2025 年 3 月 31 日

【写真提出先 QR コード】



【メッセージ 提出先】



## ■ 第 30 回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

大会長 片岡弥恵子（聖路加国際大学）



[第 30 回聖路加看護学会学術大会](#)の大会長を務めることとなりました。第 30 回という記念すべき学術大会の企画・運営に携わることができ、大変光栄に存じます。

さて、第 30 回学術大会のテーマは、「高度実践看護の未来を拓く－DNP の実装と普及－」といたしました。聖路加看護学会は、設立から現在に至るまで、一貫して看護実践の質の向上を中心的な課題に位置づけ、活動して参りました。さらなる高度実践看護の発展に向けて、第 30 回学術大会では DNP（Doctor of Nursing Practice）に焦点を当て、参加者の皆様と共に高度実践看護の将来を考えてみたいと思います。

DNP は、実践家のための博士課程です。米国では、PhD に並び実践にフォーカスした博士の学位として DNP があります。American Association of College of Nursing (AACN)は、「DNP プログラムは、患者アウトカムを改善し、研究を実践に適用するために、看護実践において最も高いレベルの看護師のリーダーを育成する」と示しています。米国では、2005 年に 13 大学であった DNP プログラムは 2022 年には 384 大学へと増加し、著しい発展を遂げています。DNP は、聖路加看護学会が一貫して目指してきた高度実践看護推進の将来に向けての一つの強力な戦略と考えられます。講演やシンポジウムを通して、日本での DNP の可能性について、ディスカッションを深めていけるようなプログラムを検討しております。

さらに、第 30 回学術大会では、聖路加看護学会創立 30 周年記念行事を開催いたします。周年行事委員会の皆様がシンポジウムや懇親会の企画を検討してくださっています。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。



↑大会 HP が完成いたしました！（トップページの一部です）

⇓大会フライヤーに演題登録期間や大会内容を記載しております！



・演題募集期間：  
2025 年 4 月 7 日～6 月 13 日  
・参加登録開始：  
2025 年 4 月 7 日～  
・研究発表、実践報告、卒論などの演題  
をお待ちしております！



大会公式ウェブサイト  
<https://x.gd/ZCqbZ>

## ■ 第 20 回ヘルシー・ソサエティー賞受賞のお知らせ

学長 堀内成子（聖路加国際大学）

ヘルシー・ソサエティー賞は、健全な社会と地域社会、国民のクオリティ・オブ・ライフの質向上に貢献した人々を称えることを目的として 2004 年に創設されました。この度、私は第 20 回「ヘルシー・ソサイエティ賞」（教育部門）を受賞しました。私はこれまで助産師としての実践、教育・研究に携わって参りました。受賞理由は、①自然分娩のできる場所作り—妊娠から出産、産後期を継続して助産師がケアする施設創り、②助産師育成に大学院での道を拓いたこと、③助産評価機構を設立し、専門職大学院や大学の評価、助産所の評価、そして個人認証制度の「アドバンス助産師」を創設したこと。④妊産婦死亡や新生児死亡に課題の多いアジア・アフリカ（タンザニア・ミャンマー・インドネシア）での人材育成であります。

いずれも時代に求められ、改善が必要だと考えて切り拓いてきた仕事でございます。それを評価していただきましたこと身の余る光栄だと考えております。

私は、子どもを産み育てることに優しい社会、人と人とが絆をつくって幸せを感じることでできる優しい社会を創りたいと考えています。我が国はもちろんのこと、世界中の子どもを産み・育てる人々が<ど真ん中>に来るような社会を願っております。

今回の受賞が、助産師をはじめ、子どもを産み育てる女性と家族、地域の人々の健康を支える仕事に携わっている人々にとって大きな励みとなるものであると信じております。

私にとってどの活動も始める際には、賛成・反対・障壁がたくさんありました。果たして成果が現れるのか不安な気持ちもありました。ここまで続けてくることができましたのは、志を同じくする仲間や先輩、後輩の存在無くしては、続けられませんでした。

これまで一緒に歩いてくださった医療関係者、教育関係者の皆様に心より御礼申し上げます。これからもお一層の研鑽を重ね、教育・研究活動に引き続き精進して参りたいと存じます。



↑ 授賞式でのご挨拶の様子

## ■ 第 29 回聖路加看護学会学術大会 -優秀演題賞の紹介-

### <研究発表>

#### 各種清拭清掃方法による環境汚染除去に関する ATP ふき取り検査法を用いた実験的検討

高梨あさき、横山久美（順天堂大学医療看護学部）

伝統ある聖路加看護学会の第 29 回学術大会にて優秀演題賞を賜り心より感謝申し上げます。

私共は日頃からガイドライン等で最善とされる環境清掃方法を実際の医療・介護現場で実施する難しさを実感しており、より簡便で現場でとり入れやすい方法での汚染除去効果を検証したいとの思いから、実験的な手法を用いた研究をしています。この研究はコロナ禍を経て環境整備の重要性が再認識される中、より効果的かつコスト面にも優れた環境清掃の方法について汚染度を数値化できる ATP ふき取り検査法を用いて実験的に明らかにすることを目的に行いました。

今回の研究結果から、10cm×10cm の範囲であれば拭き方は S 字状でも円状でも清掃後の汚染度に違いはなく、多くの場合は水拭きでも十分に汚染が取り除けることが明らかになりました。むしろ、汚染した表面の材質によってはアルコール含浸クロスを用いた清掃後の汚染度の方が高く、汚染してから時間が経過するほど固着した汚染の除去が難しいことなども明らかになりました。今後は ATP ふき取り検査法とともに、清掃数時間後など時間経過による細菌増殖についても細菌学的に検証し、医療・介護現場で取り入れやすい効果的かつコスト面からも有用な方法を提案できるように研究を進めていきたいと考えています。

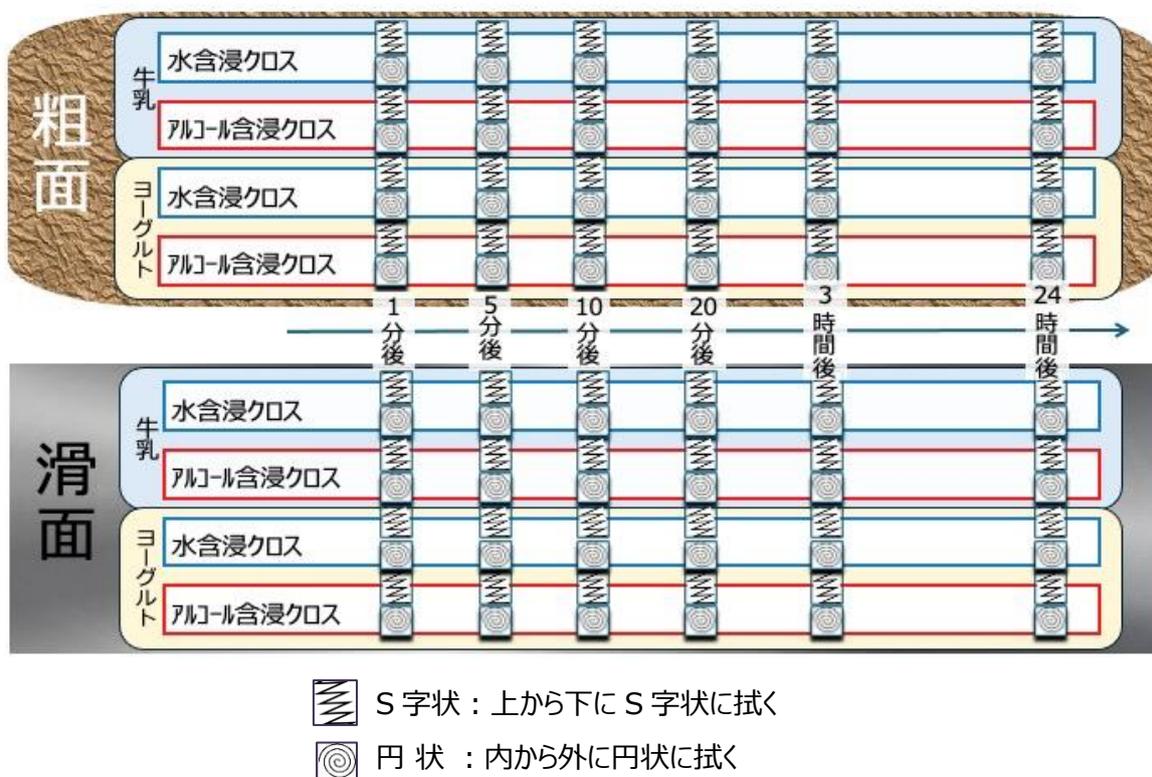


図 1 実験条件イメージ

## ■ 第 29 回聖路加看護学会学術大会 -若葉賞の紹介-

＜卒論発表＞

日本と韓国の若者における生活習慣及び健康意識に関する調査

徐輔暎、若林律子（順天堂大学医療看護学部）

この度「日本と韓国の若者における生活習慣及び健康意識に関する調査」という演題に若葉賞を頂きまして誠にありがとうございます。

近年、世界において若者の自殺率の上昇が課題となっています。日本と医療や国民の健康意識・行動、社会的背景の類似性が考えられる韓国の自殺率は OECD 加盟国の中で最も高く、身体の不調やうつは学生時代の生活習慣と関連があると報告されています。そこで、日本または韓国において小学校から高等学校までの 12 年間以上の教育課程を受けた、満 18 歳以上満 30 歳未満の日本人と韓国人 30 名ずつを対象に、高校時代の生活習慣と健康意識に関する調査を行い、両国の相違点を検討しました。日本と韓国で睡眠や運動の習慣は類似していましたが、韓国の方が勉強時間が有意に長い結果となりました。また、食習慣に違いがあり、日本の方が朝食を食べる習慣のある人が有意に多く、韓国の方が夜食を食べる習慣のある人が多い結果となりました。昼食は日本の 8 割がお弁当、韓国の 8 割が給食であり、夕食は日本の 9 割が家庭食、韓国の 5 割が給食でした。一方、日頃の不調やストレスを選択する設問の回答数の平均は双方韓国の方が有意に多く、健康への行動やストレス解消に向けた方法に関しては両国で違いはなく個人差がありました。以上のことから、日本は各家庭で栄養バランスを考慮した食事を作る必要がある一方、韓国は栄養バランスが考慮された給食を食べている学生が多いため栄養状態は問題とならない可能性があるものの、食習慣が問題となる可能性が考えられました。一方、高校生の生活の多くを占める勉強時間に伴って生活習慣の形の違いが生じており、習慣に伴った身体の不調・ストレスの相違が現れていることが考えられるため、10 代の自殺者が増加している現在において早期予防が重要となります。また、国の文化やそれに伴う習慣、心身の健康は全て関連しているため、生活全体を踏まえて総合的に捉え、個別性に合った支援をしていくことが必要です。

今回の研究で同じ高校生においても日本と韓国の学生の生活習慣や体調など違いがあることが明らかとなり、国の特性や個別性に合わせて介入方法を検討していく必要があることがわかりました。今回頂いた賞を励みに、国内外の看護における一次予防の一助となれるよう努力を重ねてまいります。

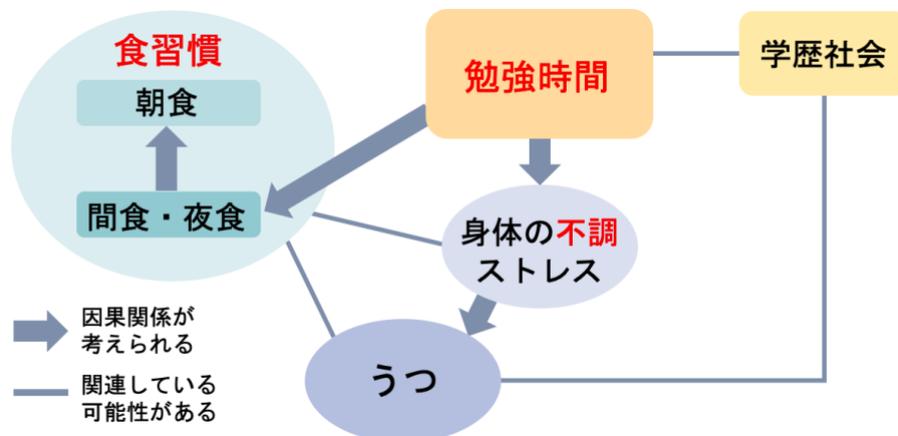


図 1 生活習慣とうつの関係

## ■ 学術交流委員会からのお知らせ

### ＊2024 年度学術交流集會を開催します！

テーマ：地域包括ケアシステムの根拠となる理論

講師：筒井孝子氏（兵庫県立大学社会科学部研究科 教授）

日時：2025年3月8日（土）13:00～15:00

オンライン開催（会員無料、非会員 2000 円、参加証明書あり）

※オンデマンド配信あり（参加証明証なし）

「地域包括ケアシステム」は、いろいろな場面で耳にしていることと思います。現在進行中の超高齢化多死社会を乗り切るための大切な keyword です。このシステムでの看護の活躍が期待されています。言葉を知っているだけでは、看護をこのシステムで生かすことはできません。必要性から理論的知識を深め、看護の力を地域包括システムにコミットさせていく次の一步を皆で考えていきたいと思ひます。地域で活動している方だけではなく、急性期病院で働く看護師も地域の重要なリソースです。高齢者ケアだけでなく、地域で生きる人（全ての人）への看護をしている皆さんと考えるべき課題です。

多くの方のご参加をお待ちしています。

参加申込は、チラシにある [QRコード](#) よりお願いします。

（担当：梅田恵、宇都宮明美、鈴木美穂、佐藤直子、中山祐紀子、松本文奈、山本真実、監物佳子）

2024年度 聖路加看護学会 学術交流会  
地域包括ケアシステムの根拠となる理論  
日時：2025年3月8日(土) 13:00～15:00  
方法：オンラインZOOM (オンデマンド配信あり)  
参加費：学会員無料・非学会員2,000円  
講師：筒井 孝子 先生  
(兵庫県立大学社会科学部研究科 教授)  
開催趣旨  
「地域包括ケアシステム」が謳われるようになって10年以上が経過しました。本学術交流集會では、普段なんとなく理解しているつもりになっている「地域包括ケアシステム」について、理論的背景を含めて実践への示唆をご講演いただきます。地域包括ケアの実践に必要な理論的知識を深めて、看護職がそれぞれの現場でどうコミットしていくか、看護の力をもち生かすための意見交換をしたいと思います。  
参加申し込み：先着 200名  
リンクまたはQRコードより申し込みください。  
3月以降にZOOM URLをご連絡します。  
[https://app.govevent.net/embedded\\_forms/show/674568b27bd4b2766a88001e](https://app.govevent.net/embedded_forms/show/674568b27bd4b2766a88001e)  
申し込み締め切り：2025年3月7日（日）期間延長しました！  
参加証明証は当日参加者への発行を予定しております。  
<問い合わせ先>  
聖路加看護学会学術交流委員会  
slnr-gk@slcn.ac.jp

## ■ 選挙管理委員会からのお知らせ

次年度は、理事選挙の年です。選挙の時期になりましたら、ホームページでお知らせします。ご所属や連絡先に変更がある方は、ご変更の手続きを早めにお願ひ致します。また、次年度は選挙管理委員の任期に伴い、メンバーの交代がありますが、新体制で円滑で正確な選挙に努めてまいります。今後とも選挙へのご理解とご協力をお願いします。

（担当：高橋恵子、永井智子、西村恵理奈、相澤恵子、射場典子）

## ■ 学会誌編集委員会からのお知らせ

まもなく、共著者に非会員を含む論文の投稿受付を開始いたします。共著者に非会員を含む論文にも対応するためのオンライン投稿システム移行に伴い、一時的に利用中止期間を設けます。詳しくは、メンバーリストおよび[学会ホームページにてお知らせ](#)いたしましたので、ご確認ください。国内外の研究者、様々な職種の方々や当事者の方々と共同研究や実践に取り組まれている会員の皆様の投稿を心よりお待ちしております。

（担当：高橋奈津子、大坂和可子、飯田真理子、川端愛、高山千春、三浦友理子、榎戸文子、加藤木真史、沢口恵、蜂ヶ崎令子、山岡栄里）

## ■ 高度実践看護開発検討委員会からのお知らせ

今年度の高度看護実践開発検討委員会主催のオンライン研修は、「高度実践看護師の協働の可能性を探る」をテーマに開催しました。

講師は、お二人で、長岡孝典氏（国立病院機構呉医療センター 救命救急センター 急性・重症患者看護専門看護師）、森一直氏（愛知医科大学病院 NP 部 師長）をお迎えしました。

長岡氏からは、組織で一人の専門看護師(CNS)として認定後の3年間の組織横断的活動からケア実践と役割開発を振り返る形で、具体的な実践や悩みを交えてのご講演でした。悩みの中で上司である職場長への相談がターニングポイントとなり、「可視化」、「行動化」へと動きが変わり、実践活動の評価としての「内省」からご自身のサブスペシャリティとなる外傷看護、RRS(rapid response system)の実践に落とし込むことから、課題を明確化することで、結果的に自身の役割開発につながったとのことでした。周囲のスタッフや診療看護師（以下「NP」と称する）と共に働くことから、全体を俯瞰してみることで自身の立ち位置を確認し、患者ケアの質の向上につなげておられました。

森氏からは、NPについての概説と具体的な自施設でのNPの管理体制の説明がありました。施設内での医療ニーズの変化（病院移転、麻酔科医の減少、各診療科からの要望）をとらえ、NP部の立ち上げ時には、診療科教授への「業務策定」依頼、看護部長への「職務規定」作成依頼などNPの「役割の明確化」を行いながら、組織が求めるニーズとNPが行う役割を周術期医療の医療課題の分析を通してNPの使命を明確にされた経緯が提示されました。また、NP部立ち上げにより大学院修士の教育制度を自施設内で確立され確実なNP実践者の教育を進めておられました。一方、臨床現場の調整として、1)業務内容の検討や2)各診療科からくる追加業務依頼の検討（承認、代替案）も行い、NP個人のリスク回避と安全管理意識向上も行っておられました。

高度実践看護の協働の可能性について、森氏からは、CNS/NP合同症例検討会（3か月1回開催）を看護部とも協働して行なうなかで、お互いの強みや、お互いに補完できることがみえたこと、倫理的な事象においては、CNSは患者・家族の全体を捉え、NPは病態的視点でサポートするなどが提示されました。複雑化する医療のなかでは、高度実践看護において、認定後も明確な教育プログラムが必要であり、安全管理も確実に行える組織のガバナンスが必須であることもご講演から理解ができました。

参加者64名のうち、45名（回収率70.3%）よりアンケート回答を頂きました。回答者は、40代が4割弱、50代が3割弱、30代が2割という構成で、6割強は専門看護師（急性重症患者看護領域の方が大半）でした。講演に対しては、両講師の『講義内容の理解』はいずれも9割強が肯定的回答、『研修満足度』および、『今後の仕事で役立つ』はいずれも肯定的回答が90%でした。

ご講演後の意見交換では、NPと研修医の違い、活動時間の確保、事例検討会の持ち方、高度実践看護師間の協働などがありました。役割分担・協働の実際としては、患者状況の病態・生理を同レベルでオーバーラップして理解・アセスメントしつつ、治療ケアの時間軸で役割を分けながら協働するとの解説がありました。また、「CNS/NP事例検討会」を開催の手順・参加者確保についての質問に対しては、現検討会を本格的に確立し、院外への広報も進めたいとの回答がありました。高度実践看護師の協働は、患者ケアの経過の中でお互いの強みを理解して営まれることが改めて明らかになり、本研修会は盛会裏に終わられました。最後に、講師、聴衆両者より当日の運営にご協力を頂きましたこと、委員一同、心よりお礼申し上げます。[次ページに発表者のスライドの一部あり]

（担当：柳橋礼子、青木悠、小松崎朗子、山本加奈子、小林成光、渡辺かづみ、吉田智美）

聖路加看護学会 2024年度 高度実践看護開発検討委員会 研修会  
2024年12月1日 (日) 13:10~13:50



急性・重症患者看護専門看護師に求められる  
スペシャリストとしてのケア実践を考える

NHO 員医療センター 救命救急センター  
急性・重症患者看護専門看護師  
長岡 孝典

聖路加看護学会 オンラインセミナー  
2024/12/1

メインテーマ：高度実践看護師の協働の可能性を探る

診療看護師（NP）としての  
組織における役割開発

森一直 RN, NP, MSN, Ph.D.  
愛知医科大学病院 NP部部長  
愛知医科大学看護学部 臨床教授



## ■ 庶務からのお知らせ

年度末が近くなりました。皆様におかれましては、年度末に向けてご多用な時期をお迎えになると思います。新年度からご連絡先の変更がある方は、HP内「[会員情報変更](#)」フォームよりご入力いただき、事務局へのご連絡をよろしくお願いいたします。現在、会員数は552名（2024年12月22日現在）です。入会を希望する方がいらしたら、ぜひご推薦くださいますようお願いいたします。

（担当：五十嵐ゆかり、青木裕見、沖村愛子）

## ■ 会計からのお知らせ

2025年度の新しい活動計画を立てる時期になりました。2025年度は30周年事業が計画されており、準備がすすめられています。学術大会、各委員会の企画も活発に行われていますので、ご期待ください。

学会活動は皆様の会費により成り立ちます。今年度の年会費をまだお支払いになっていない方は2024年度中に納入してください。本学会の規定では、3年間年会費を滞納された方は除名になってしまいます（その際にも未納入の会費の請求を行います）。魅力ある学会をつくるために、ぜひ年会費の納入をお願いします。

（担当：林直子、亀田典宏、木村理加）

振り込み先：郵便振替口座

口座番号：00100-8-670371

加入者名：一般社団法人聖路加看護学会

## ■ 編集後記

2025年（巳年）が始まりましたが、みなさんも新しい出会いや旅立ちの準備に忙しいでしょうか？私は好き嫌いはない方ですが、今年は巳年にちなんでいろんなできごとをペロリと飲み込める一年にしたいと思います。

ニュースレター発行や様々な情報をメーリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 [slnr@slcn.ac.jp](mailto:slnr@slcn.ac.jp) までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.68

▶ 発行：2025年2月28日

▶ 編集：広報委員会

（賀数勝太 増澤祐子 廣田千穂 池口佳子 海老原樹恵 飯岡由紀子）

▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

変更届フォーム



「学会ホームページ」<https://slnr.or.jp/>

2025. 2. 28 No. 68